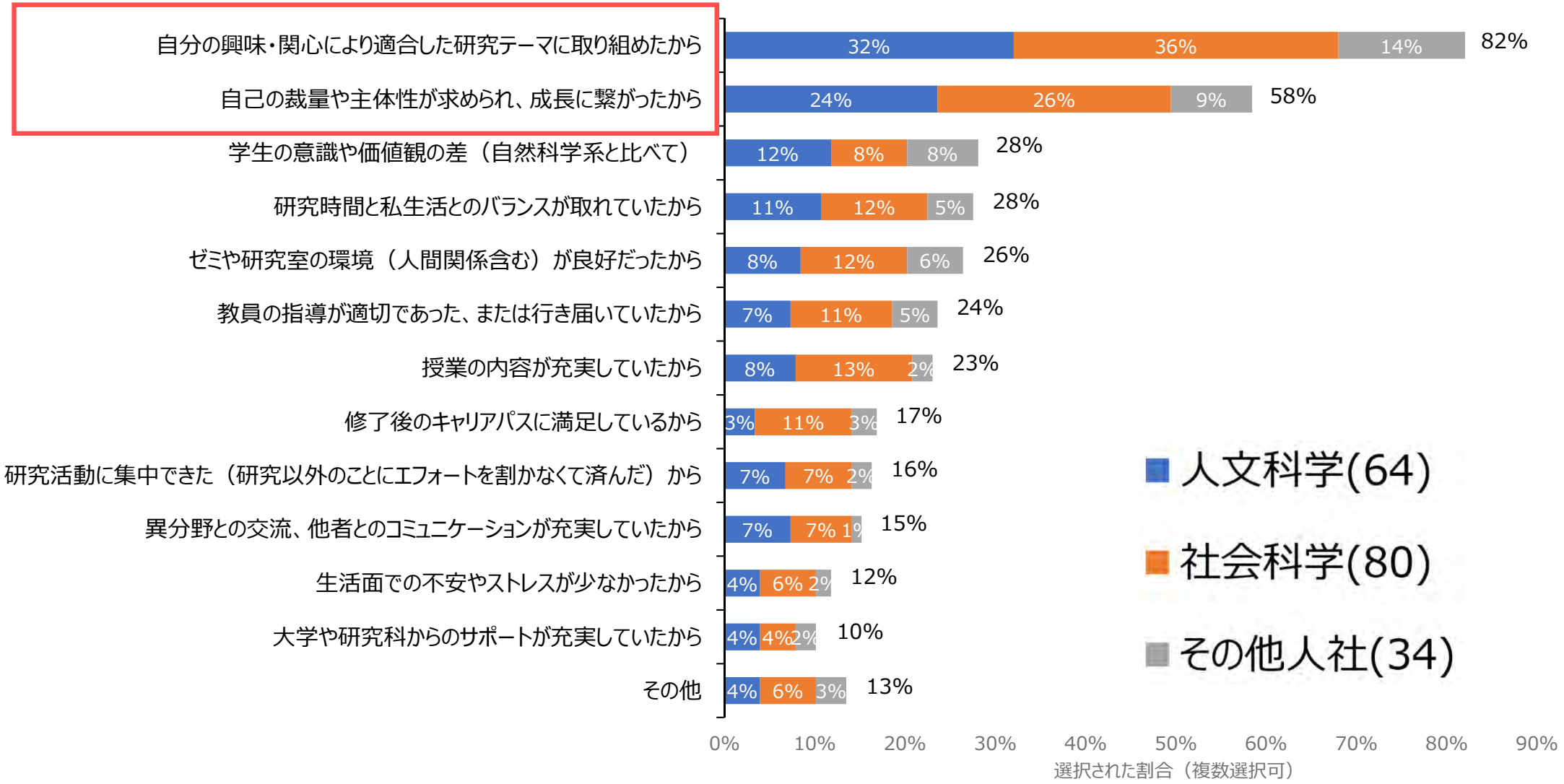
修士課程の満足度が高い理由をどう考えるか

修士課程における教育課程への満足度の高さについて、現役学生や修了者からは、
自らの関心への適応度や裁量・主体性の高さによるものと考える意見が多数

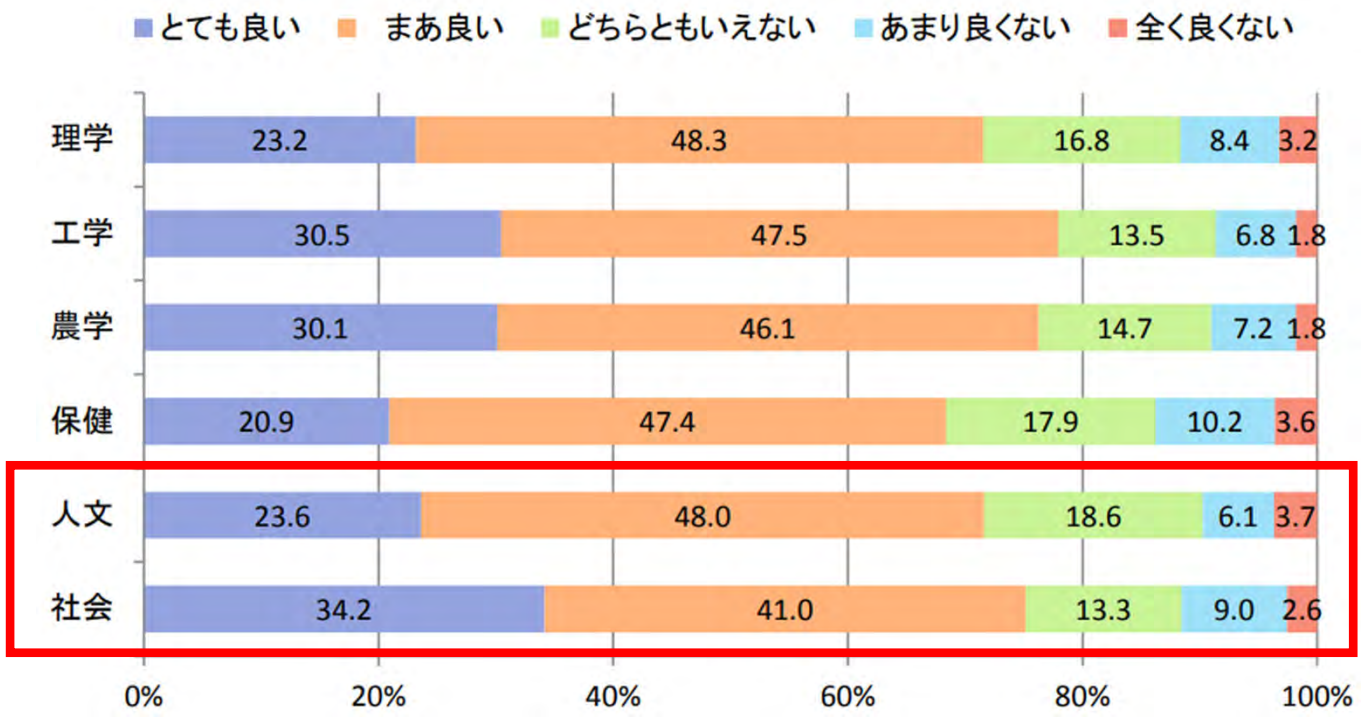


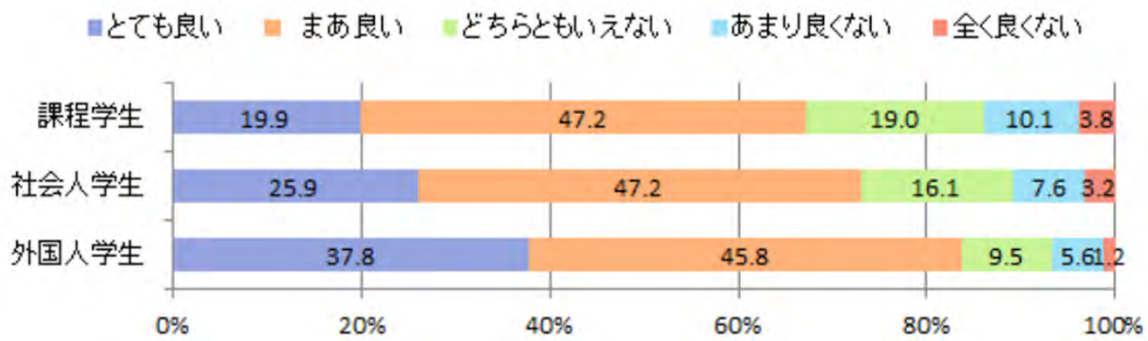
【出典】第106回 中央教育審議会大学分科会大学院部会資料（令和4年5月）

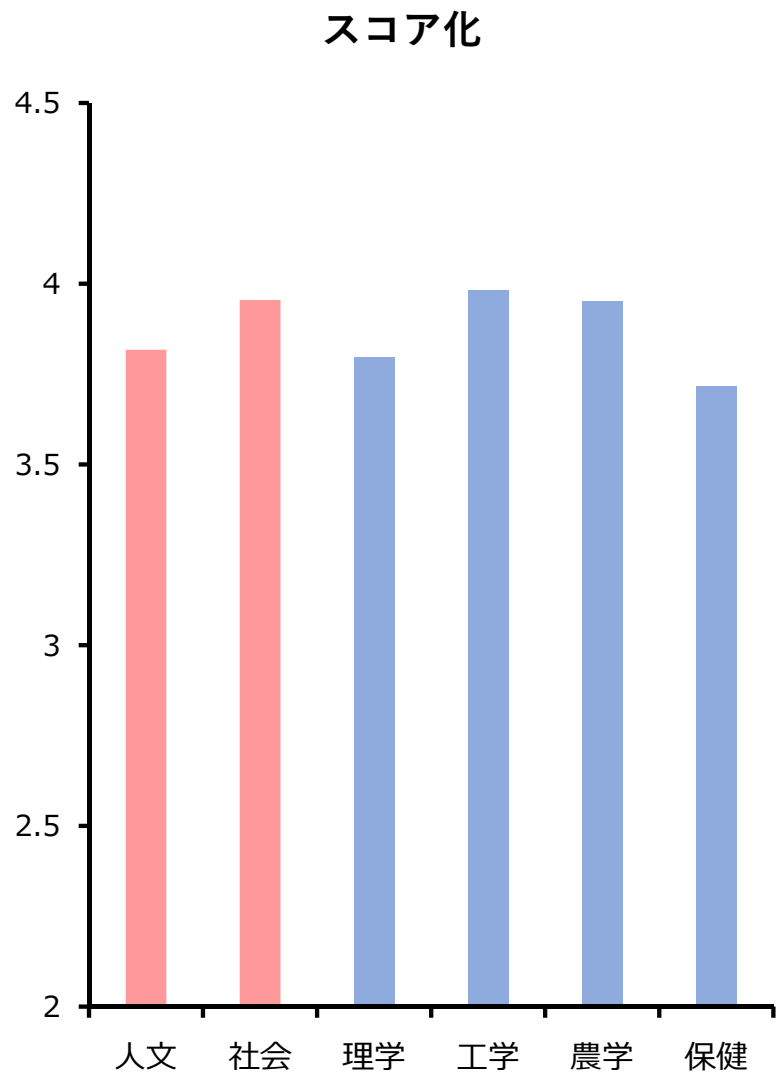
（参考）博士課程の満足度

博士課程プログラム対する満足度は、人文科学・社会科学系と他の分野とで大きな差はない

※なお博士課程プログラムへの満足度は、全分野平均において課程学生（ストレート）が最も低く、社会人学生、 外国人学生の順に高くなる傾向



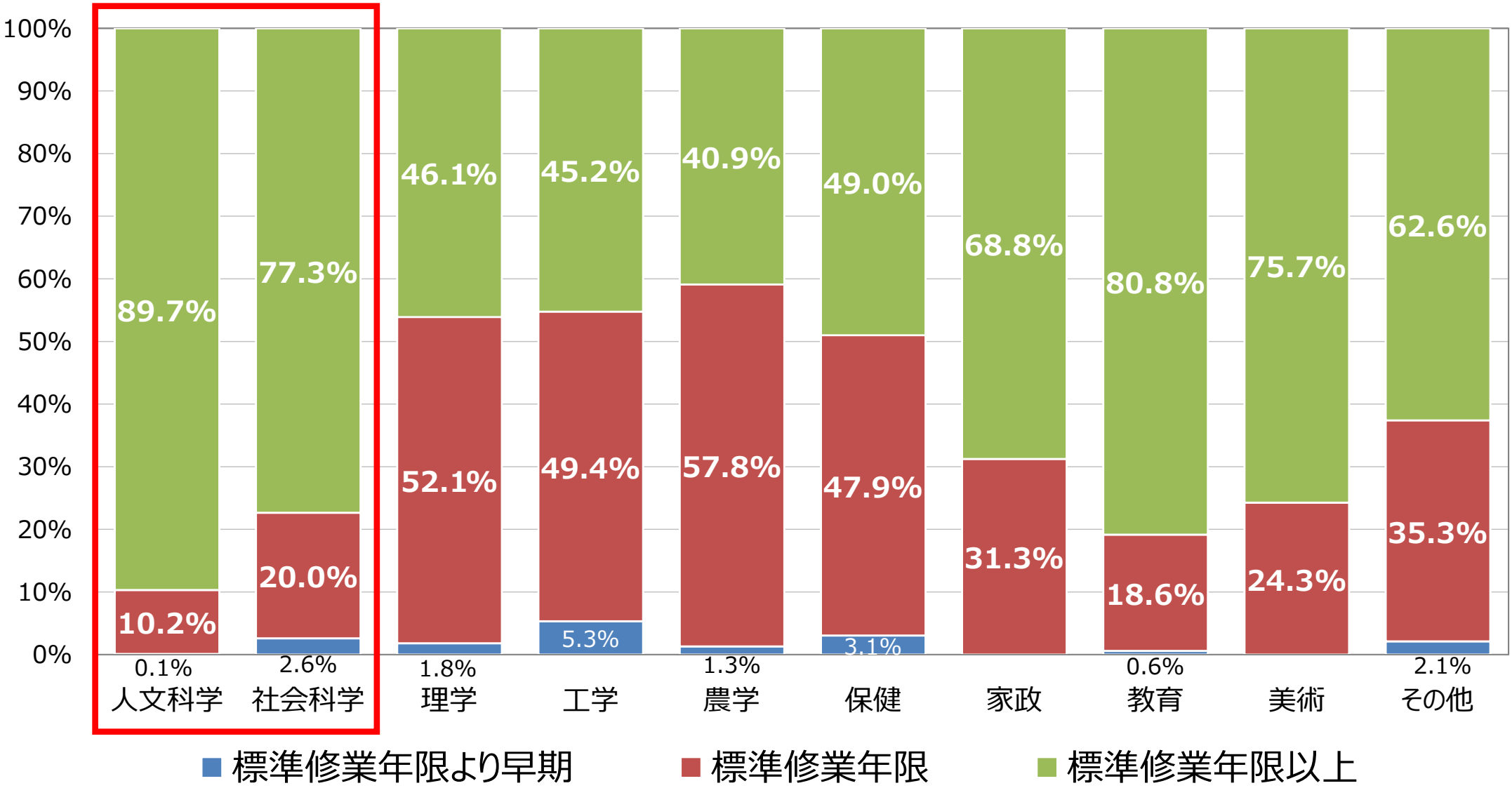




【出典】「博士人材追跡調査」第2次報告書（文部科学省 科学技術・学術政策研究所,2018年）を基に作成

博士課程の標準修業年限超過割合（令和２年度実績）

人文科学・社会科学系の博士修了者の標準修業年限超過割合は極めて高く、人文科学系では約９割、社会科学系では約８割が標準修業年限を超過している（修士課程では約２割が超過）



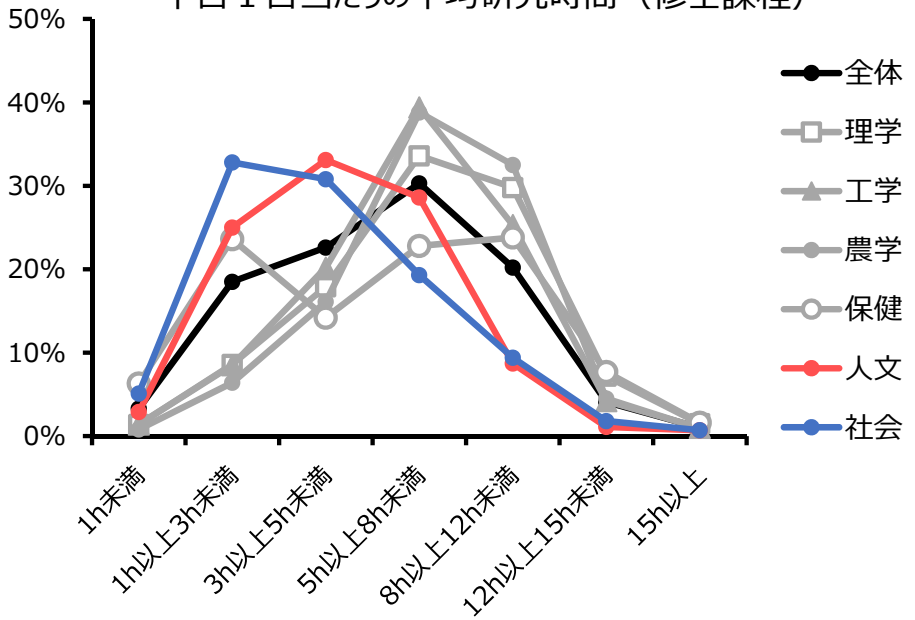
※長期履修制度の利用者を除いた値

【出典】令和３年度文部科学省委託調査「大学院における教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」（リベルタス・コンサルティング，令和４年）

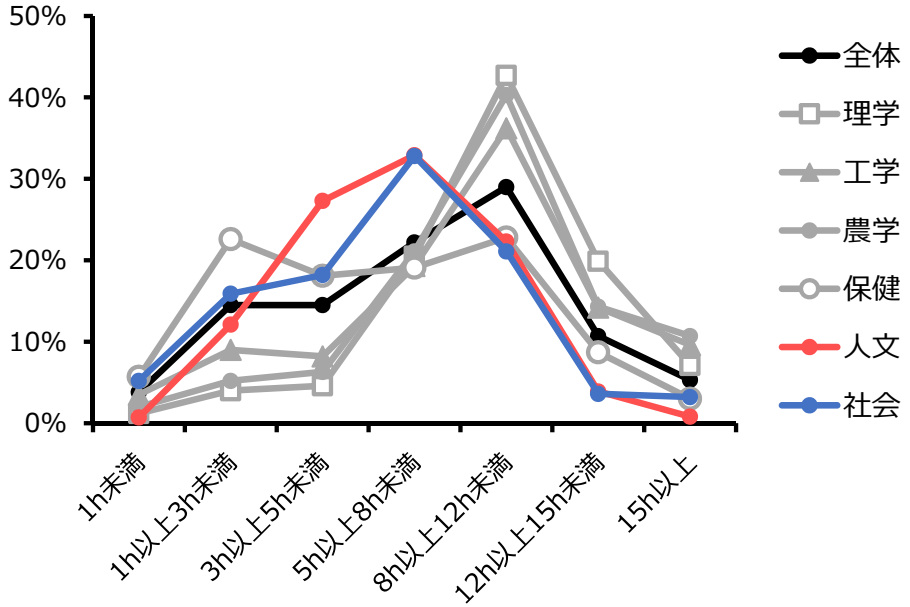
大学院生の研究時間

人文科学・社会科学系では、他の分野に比して修士・博士学生の１日あたりの研究時間が短い

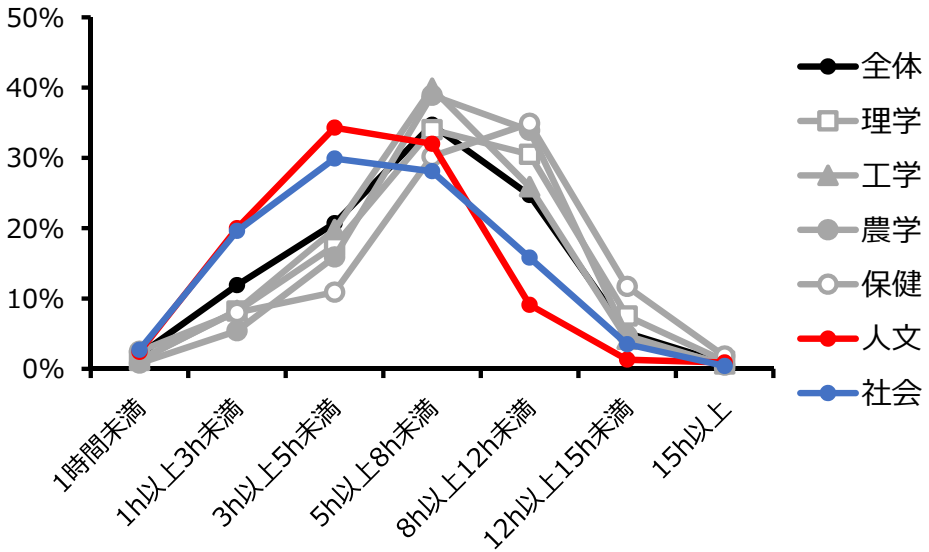
平日１日当たりの平均研究時間（修士課程）



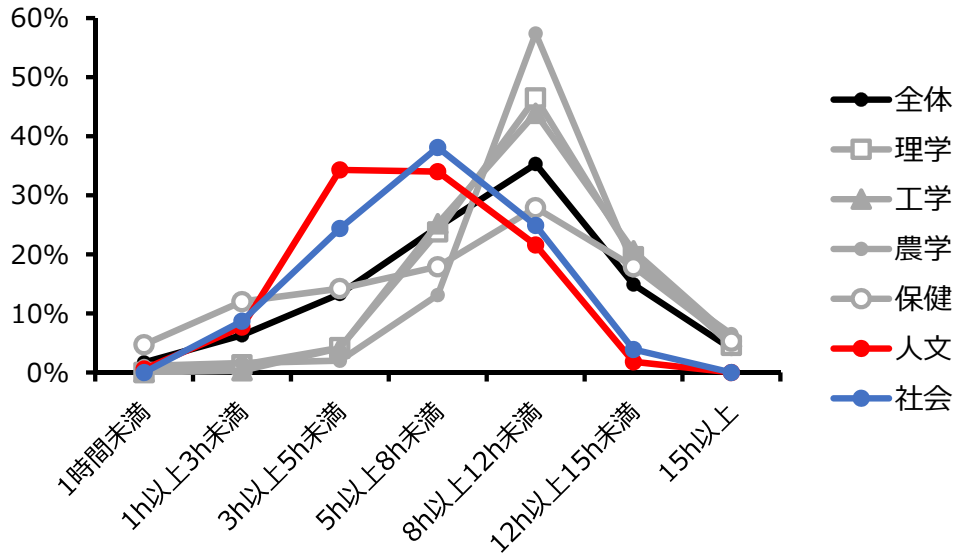
平日１日当たりの平均研究時間（博士課程）



社会人学生及び留学生を除いた値（修士課程）



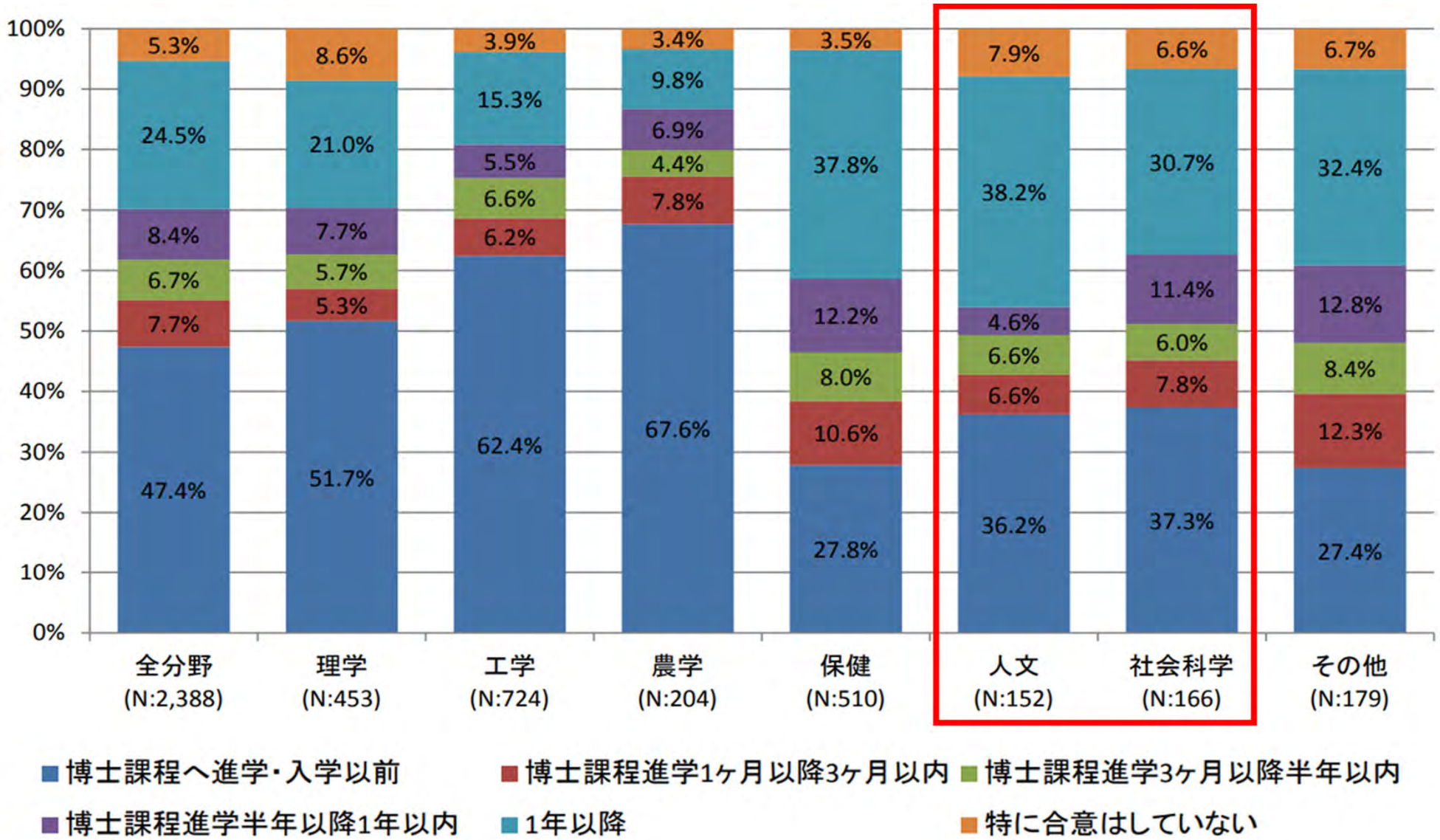
社会人学生及び留学生を除いた値（博士課程）



【出典】「修士課程（6 年制学科を含む）在籍者を起点とした追跡調査(2020年度修了（卒業）者及び修了(卒業)予定者に関する報告)」（科学技術・学術政策研究所, 2021年）
「博士人材追跡調査－第４次報告書－」（科学技術・学術政策研究所, 2022年）

博士論文のテーマについて指導教員と合意した時期

人文科学・社会科学系では、他の分野に比して博士論文のテーマの決定時期が遅い



【出典】「博士課程修了者調査2011:我が国の博士課程における研究指導・教育に関する調査研究」（科学技術政策研究所, 2012年）

指導教員の研究指導の頻度

人文科学・社会科学系では、他の分野に比して年間の研究指導の頻度が少ない

	週１回以上	週１回程度	月に１，２回程度	年に数回程度	ほとんどない
文系	10.2%	19.3%	37.0%	25.0%	8.6%
理系	24.5%	26.5%	35.1%	9.6%	4.2%
医療系	29.2%	27.7%	28.2%	9.3%	5.7%
全体	**21.1%**	**24.4%**	**34.1%**	**14.6%**	**5.8%**

大学院生の研究テーマと指導教員の研究との関係

人文科学・社会科学系では、学生の研究テーマと指導教員の研究領域と異なるケースが多い

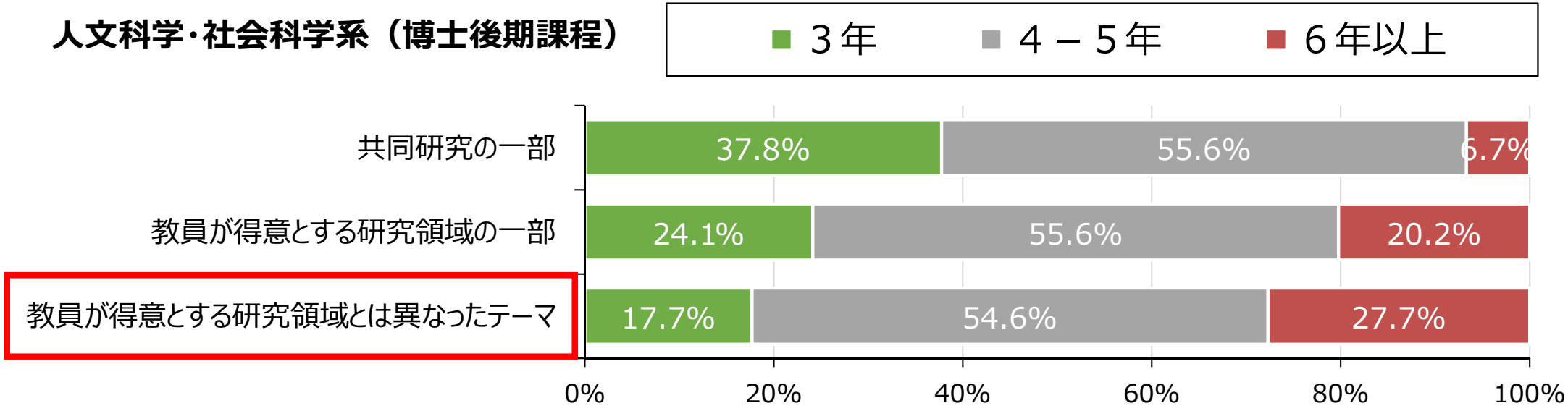
	指導教員を中心とする共同研究の一部	指導教員が得意とする研究領域の一部	指導教員が得意とする研究領域とは異なったテーマ
文系	6.2%	57.3%	36.4%
理系	31.9%	54.1%	14.0%
医療系	23.6%	51.6%	24.8%
全体	**24.8%**	**54.0%**	**21.2%**

【出典】福留東土「大学院教育と学位授与に関する研究Ⅱ 第５章 大学院生の研究活動と研究指導」（2007年, 広島大学高等教育研究開発センター）

「研究テーマの性格」と「学位取得に必要と考える年数」との関係

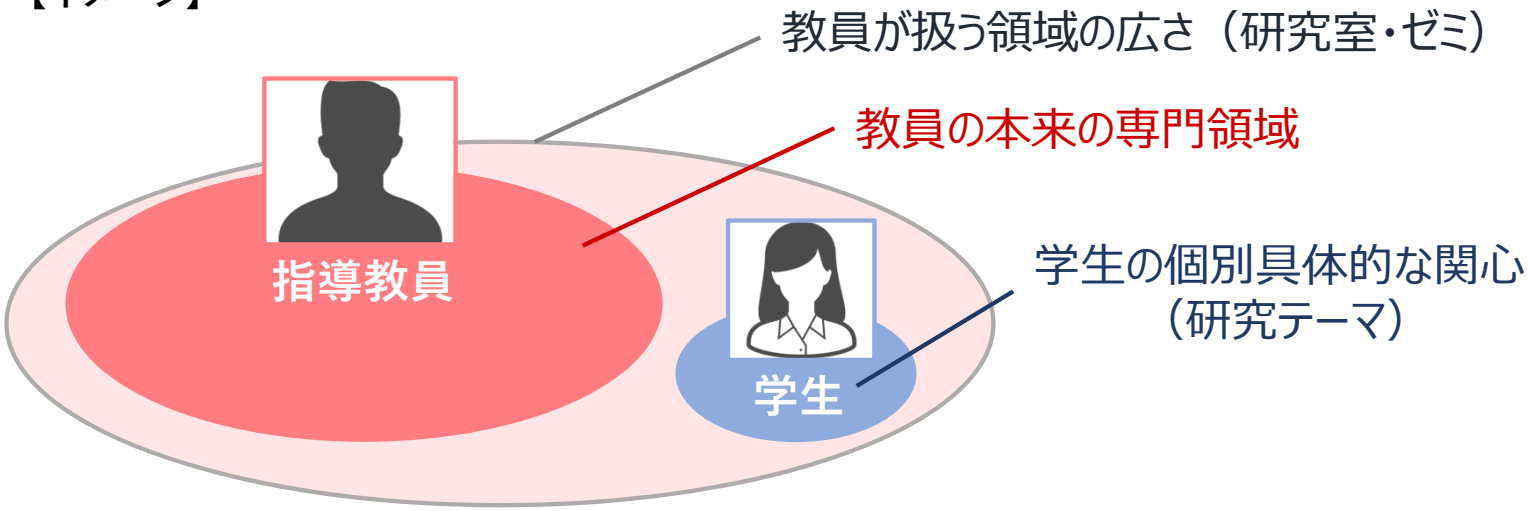
学生の研究テーマと指導教員の研究領域の相性は研究指導の質や円滑な学位授与等に影響

人文科学・社会科学系（博士後期課程）



【出典】福留東土「大学院教育と学位授与に関する研究Ⅱ 第５章 大学院生の研究活動と研究指導」（2007年，広島大学高等教育研究開発センター）を基に文部科学省が作成

【イメージ】



- 分野が内包する領域の広さと対照的に、個々の学生の研究テーマが深く狭い
- 専攻や研究科の規模が小さく他大学院等との連携の弱い

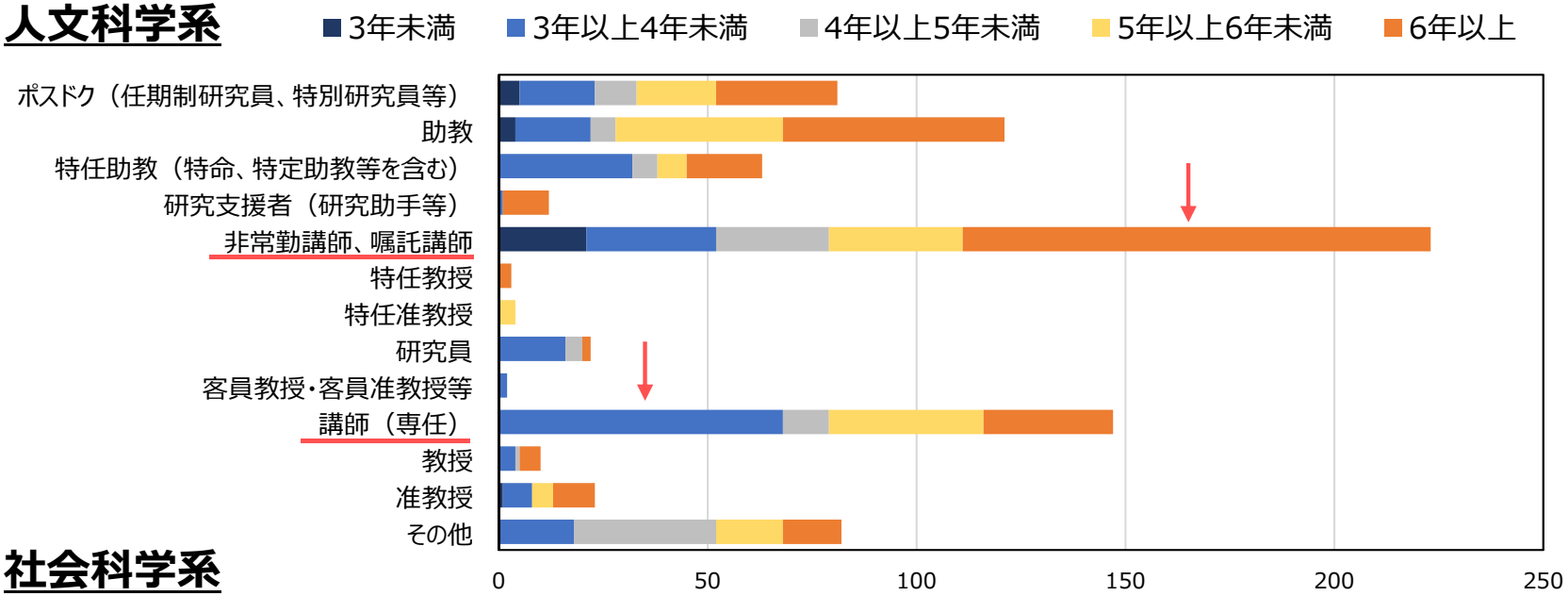
➡ 個別の研究テーマを受け止めきれない

- 研究テーマや研究体制が個別的であり、前任者からの引継ぎや研究の分担といった要素が少ない

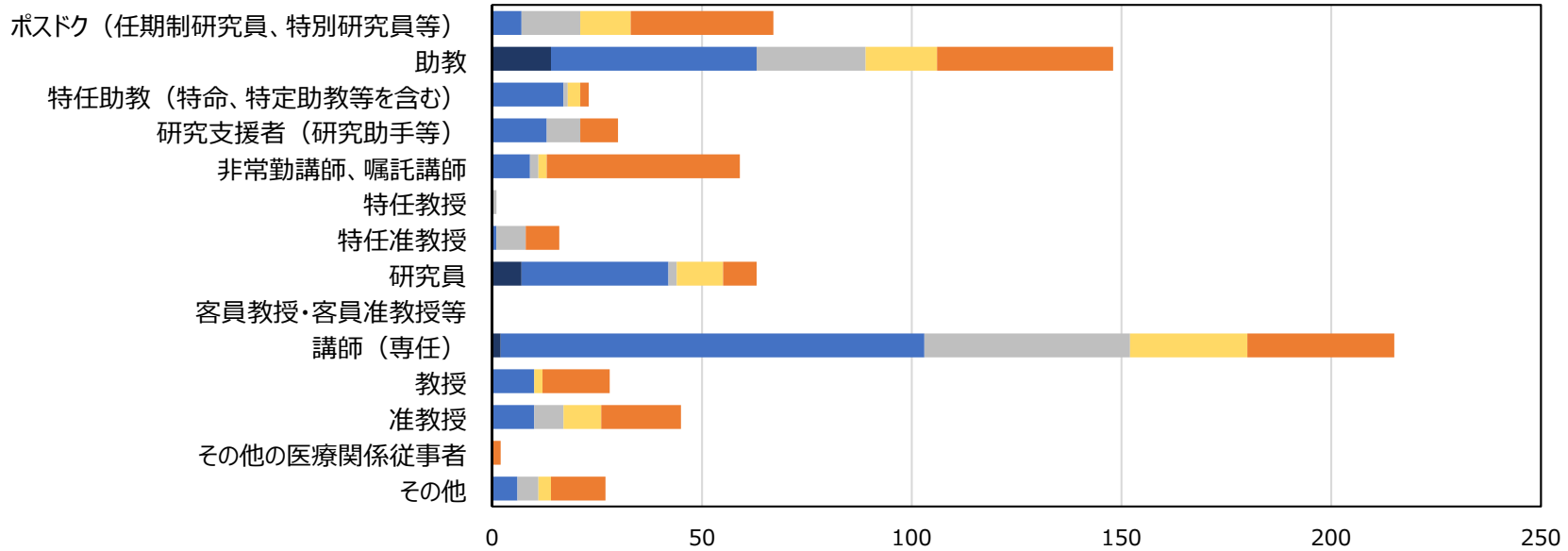
大学教員等へのキャリアパス

人文科学・社会科学分野の博士後期学生の多くが大学教員を志望するなか、標準修業年限を大幅に超えて博士課程に在籍することは、安定したポストの獲得よりもむしろ不安定な雇用に相関する傾向

人文科学系



社会科学系



- 人文科学系では非常勤講師・嘱託講師として雇用されている者が多く、その約半数が博士課程に６年以上在籍した者
- 人文科学系の講師（専任）については、そのや約半数が博士課程に３年以上４年未満在籍した者
- 社会科学系では講師（専任）として雇用されている者が多く、その約半数が博士課程に３年以上４年未満在籍した者

【出典】科学技術・学術政策研究所「博士人材追跡調査」より、2018年博士課程修了者の1.5年後の状況についてグラフ化（※回答者数は数字は重みづけされた値）

指導教員等の意識等

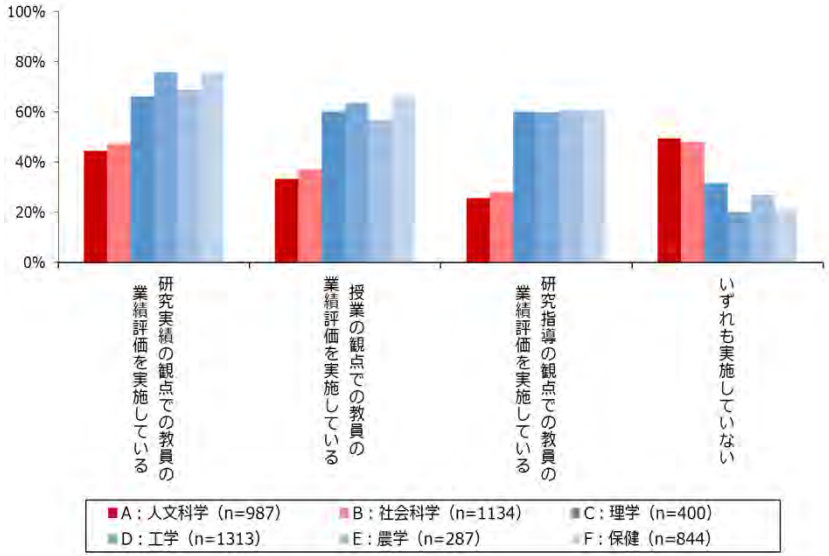
学生や修了者からは、教員による学生の指導状況が不透明であることや、指導教員の問題として、学生に円滑に学位を取得させるためのマネジメント能力の不足や、学位・修業年限に対する考え方・意識に問題があるといった指摘

また、研究に必要な予算規模が比較的小さく、教員が外部資金の獲得や、学生のRA雇用等の経済的支援に消極的との声

現役大学院生や修了者へのアンケートで得られた定性的意見の例

- 学生のテーマに近い専門分野の教員でないと研究が進まないことが多い。学位授与に向けたマネジメント能力や意識も教員によって差がある。
- 教員と学生とで「博士号」に対する価値観のギャップがある。
- 学位授与に係る基準が研究科内の対人関係や一部の権力ある教員による属人的な判断に依存している場合がある。
- 研究に対する指導方針が明瞭に示されないため、学生が適切な指導を受けることができない。
- 教員に教育者としての行程管理能力がなく、時間リテラシー（時間感度、時間遂行意識）が低い傾向がある。
- 教員に社会人経験がなく、社会の現状・常識・倫理観・業務推進・良識・広さ等が欠如している。教員が思想的に偏向している。
- 教員も学生も個人主義的な雰囲気がある。学問は個人で進めるものという信念が強く、自由・マイペースすぎて修了までの時間が不必要に伸びている。
- オーバードクターがある意味伝統となってしまっており、教員・学生の双方に切迫感がない。教員自身が年限を意識せずに学生時代を過ごしてきた。
- 学生の見極めが入試時や研究計画策定時にできていない。
- 教員の意識改革（非アカデミアに対する無理解）及び指導教員の意識に院生が過度に左右されないような院生への働きかけが必要。 等

【出典】第106回 中央教育審議会大学分科会大学院部会資料（令和4年5月）



人文科学・社会科学系では教員の業績評価の実施率が低く、教育・研究いずれの観点でも実施していない研究科が約半数にのぼる

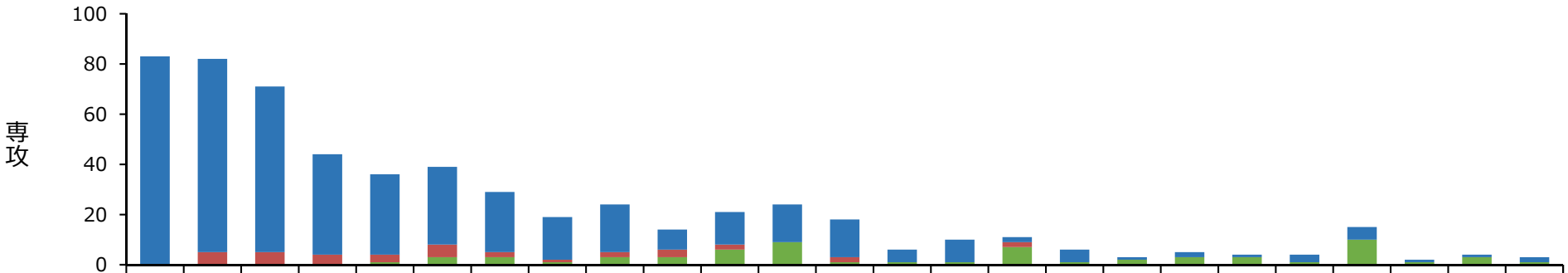
【出典】令和３年度文部科学省委託調査「大学院における教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」（リベルタス・コンサルティング，令和４年）

研究科や専攻の規模・構造的課題

人文科学・社会科学分野における修士課程の入学者充足率は他の分野と比べて低く、年間入学者数が少ない小規模な専攻が多数存在（教育研究・組織的取組等のスケールメリットが弱い）

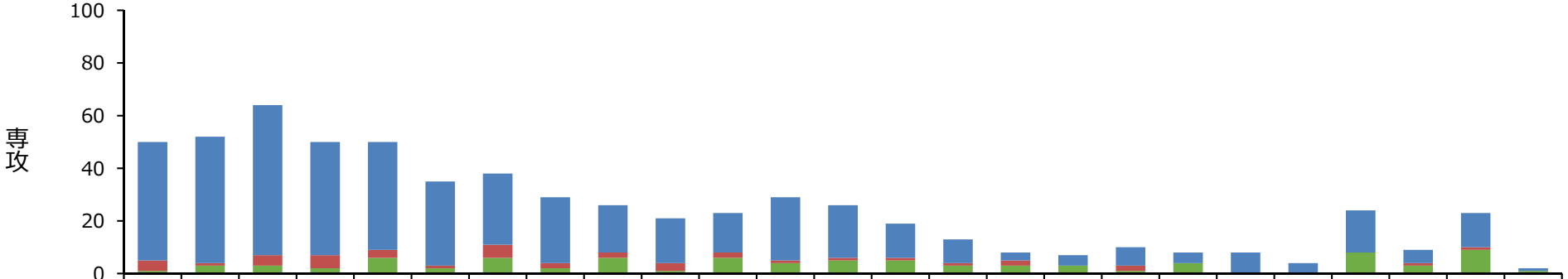
専攻別 修士課程への年間入学者数

人文科学：577専攻（国立：64専攻、公立： 36専攻、私立： 477専攻）



	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11,12人	13,14人	15,16人	17,18人	19,20人	21,22人	23,24人	25,26人	27,28人	29,30人	31～40人	41～50人	51～100人	101人～
私立	83	77	66	40	32	31	24	17	19	8	13	15	15	5	9	2	5	1	2	1	3	5	1	1	2
公立	0	5	5	4	3	5	2	1	2	3	2	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
国立	0	0	0	0	1	3	3	1	3	3	6	9	1	1	1	7	1	2	3	3	1	10	1	3	1

社会科学：628専攻（国立：87専攻、公立： 42専攻、私立： 499専攻）

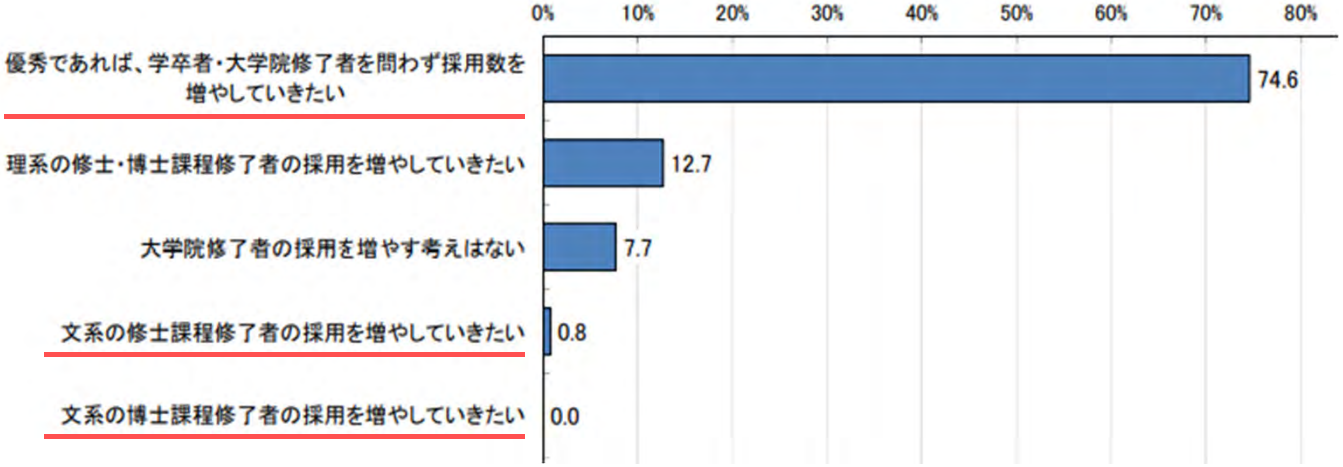


	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11,12人	13,14人	15,16人	17,18人	19,20人	21,22人	23,24人	25,26人	27,28人	29,30人	31～40人	41～50人	51～100人	101人～
私立	45	48	57	43	41	32	27	25	18	17	15	24	20	13	9	3	4	7	4	8	4	16	5	13	1
公立	4	1	4	5	3	1	5	2	2	3	2	1	1	1	1	2	0	2	0	0	0	0	1	1	0
国立	1	3	3	2	6	2	6	2	6	1	6	4	5	5	3	3	3	1	4	0	0	8	3	9	1

【出典】令和３年度文部科学省委託調査「大学院における教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」（リベルタス・コンサルティング，令和４年）

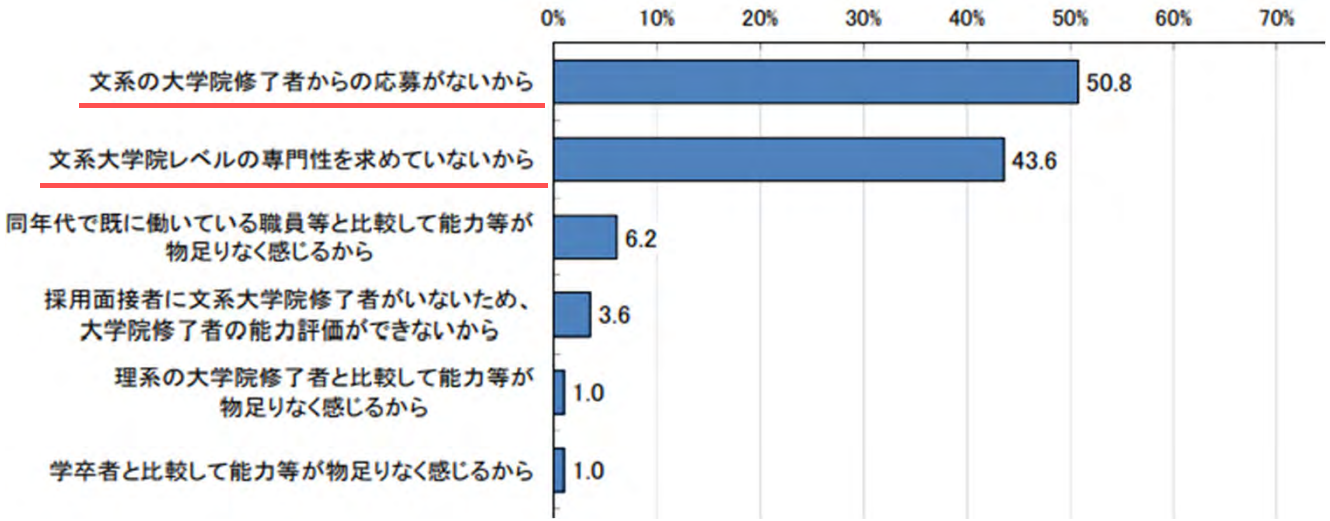
民間企業等へのキャリアパス

大学院修了者の採用意向（複数回答）



社内における人文科学・社会科学分野の院卒人材は少なく、企業等と大学の双方で、未だ修了者の具体的なロールモデルが定着していない
今後の採用意向についても先行き不透明な状況

文系の大学院修了者の採用実績がない理由



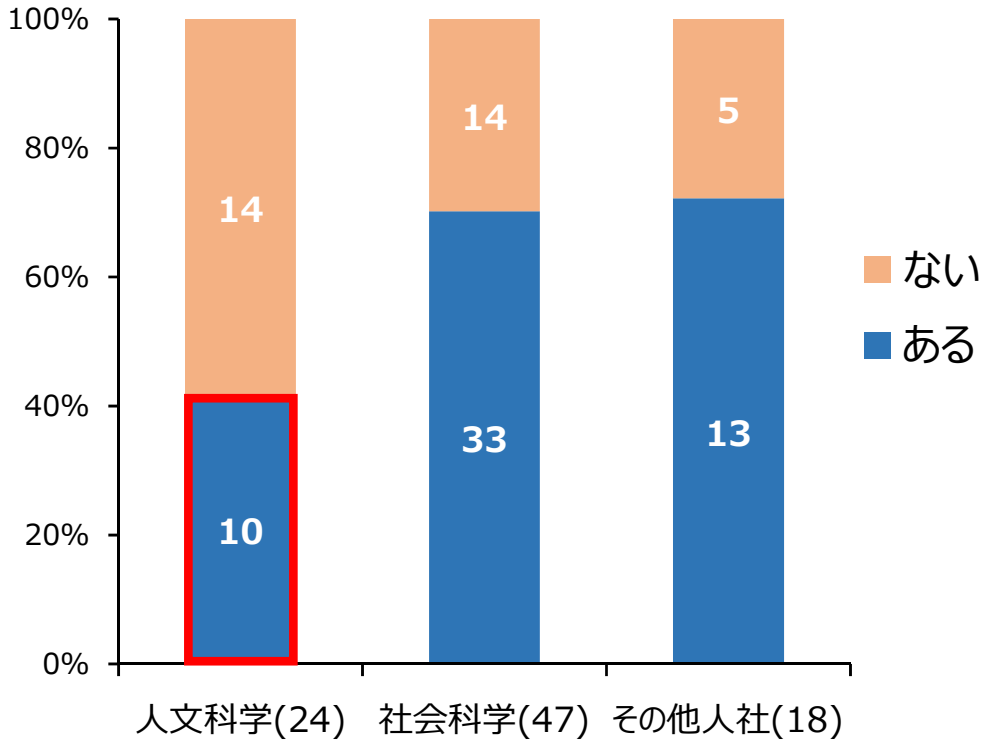
民間企業で採用実績がない背景には、「応募がないから」「大学院レベルの専門性を求めていないから」等、学生がアカデミア以外のキャリアパスに目を向けていない、民間企業が院卒人材の価値を認識していないといった相互無理解な状況が存在

【出典】平成26年度文部科学省先導的大学改革推進委託事業「人文社会系の大学院（修士・博士課程）における教育内容及び修了者のキャリアパスの実態等に関する調査研究報告書」（平成27年, 株式会社 浜銀総合研究所）

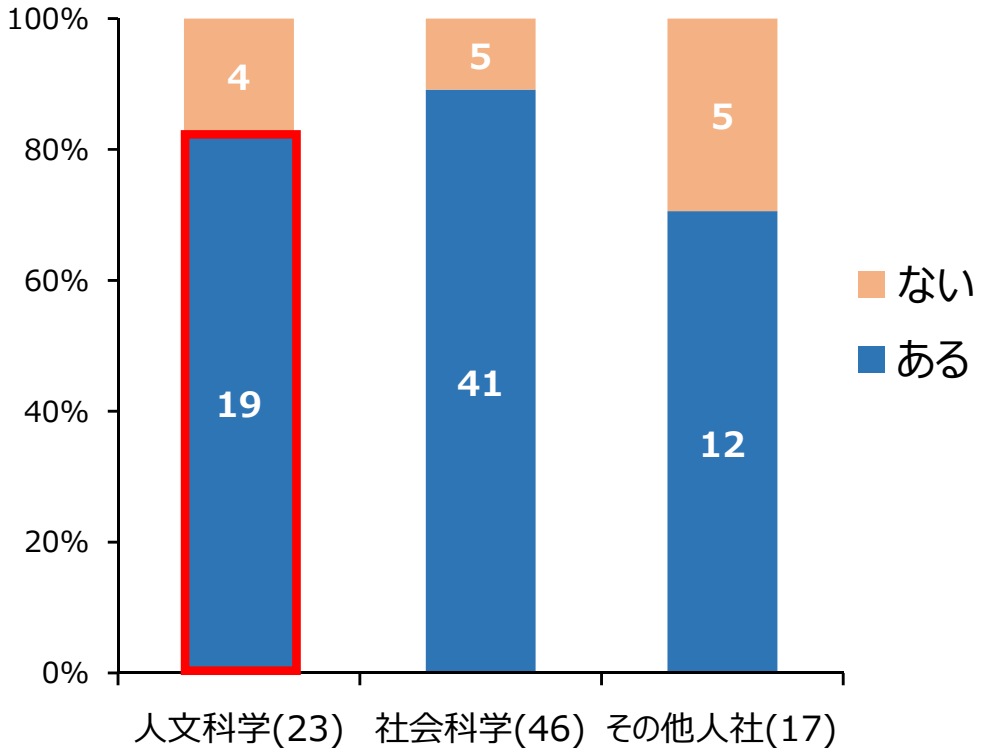
民間企業等で役立つ能力

院卒の民間等就職者からは（人文科学系では特に）大学院で学んだ専攻の知識や技能よりも、課題設定力・最先端の知へのアクセスといった汎用的な能力のほうが社会で役立つ・評価されるとの意見

民間企業等において、大学院で学んだ研究分野の専門的知識や技能が、仕事をする上で役に立つ（評価される）ことはありますか



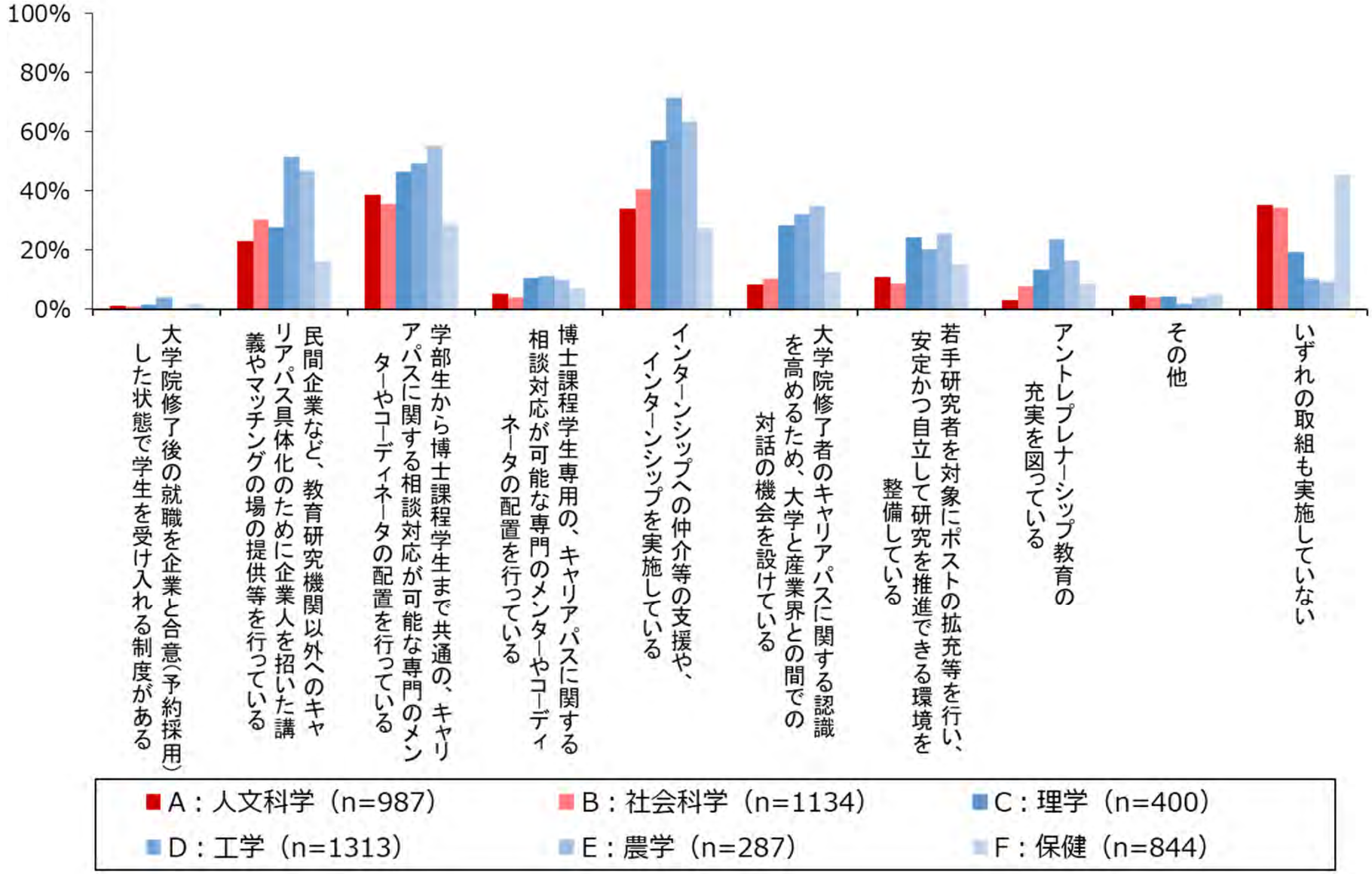
大学院教育で培った能力（論理的思考力や最先端の知へのアクセス等のスキル）が仕事をする上で役に立つ（評価される）ことはありますか



【出典】第106回 中央教育審議会大学分科会大学院部会資料（令和4年5月）

大学院改革に関する組織的取組の実施状況

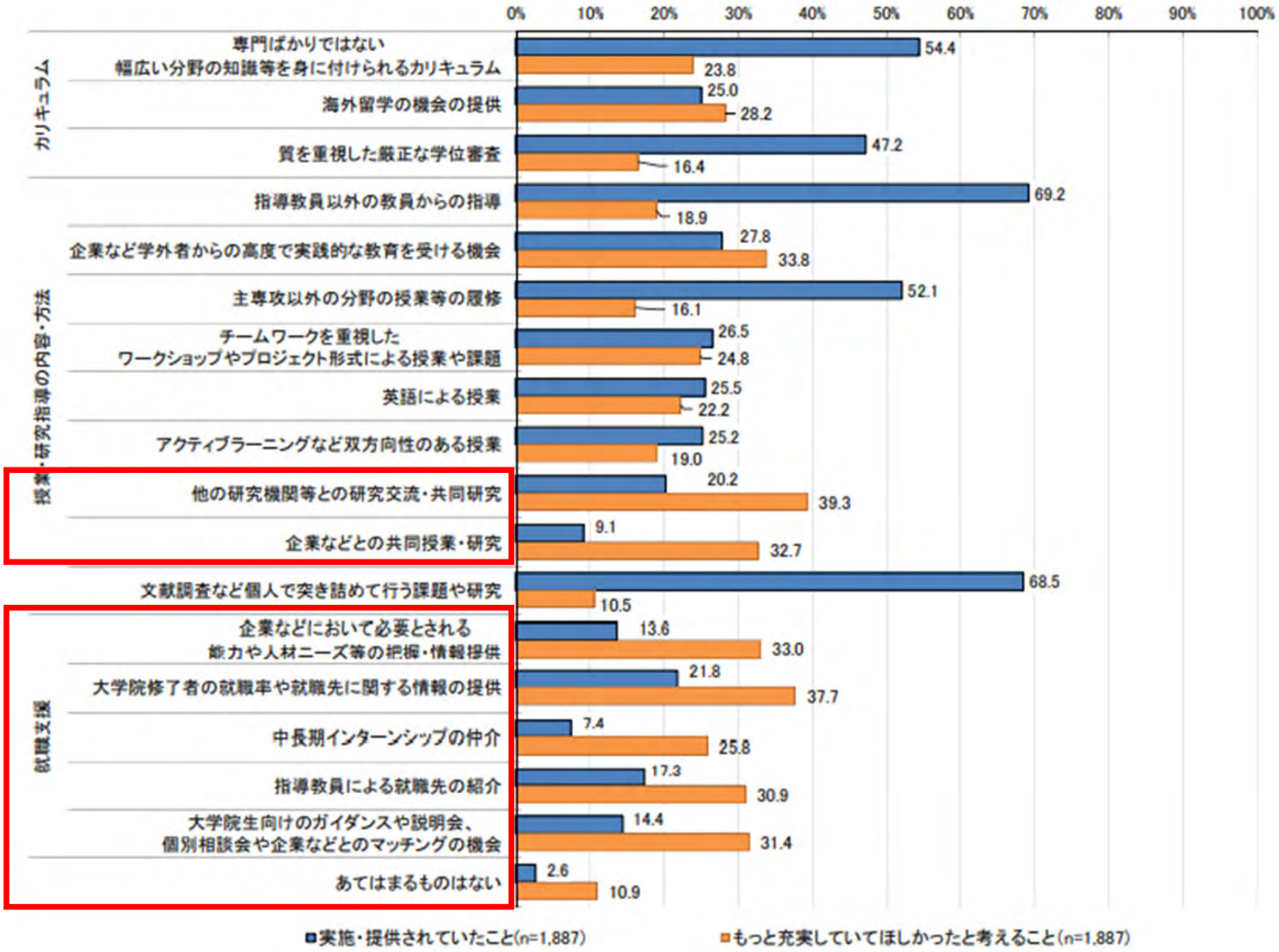
人文科学・社会科学系では大学院での組織的な就職支援に係る取組が低調



【出典】令和３年度文部科学省委託調査「大学院における教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」（リベルタス・コンサルティング，令和４年）

大学院改革に関する組織的取組の実施状況

修了した大学院・研究科において実施・提供されていたこと（青）と、
もっと充実していてほしかったと考えること（橙）との対応関係（複数回答）



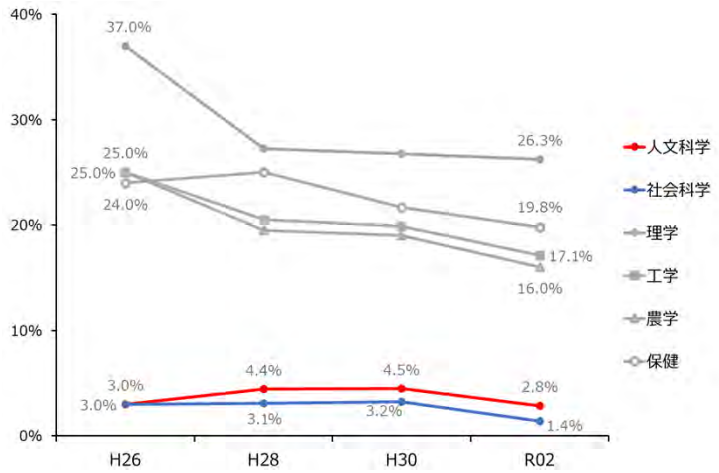
【出典】平成26年度文部科学省先導的大学改革推進委託事業「人文社会系の大学院（修士・博士課程）における教育内容及び修了者のキャリアパスの実態等に関する調査研究報告書」（平成27年，株式会社 浜銀総合研究所）

人文科学・社会科学系大学院の学生のキャリアパス開拓や就職支援に向けた取組について、修了者の満足度は低い。

教育研究内容では、学外との共同研究やプロジェクト等、チームワーク型の取組が求められている。

人文科学・社会科学系では研究指導委託（連携大学院制度）の実施率が極めて低い

研究指導委託の実施割合



【出典】令和３年度文部科学省委託調査「大学院における教育改革の実態把握・分析等に関する調査研究」（リベルタス・コンサルティング，令和４年）